

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の入れ替わりに応じて研修を行い、理念を共有しています。カンファレンスの話し合いで意識づけするようにしています。	法人とホームの理念をフロアに掲示している。利用者の個性や生活歴を大事にしており、一人ひとりにあったケアとは？について、振り返る機会を設けることで意識付けしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣の授産施設の喫茶店の利用や、地元小中学生の慰問・ボランティアを受け入れており、運営推進会議や包括支援センターを活用するよう努めています。	買い物・散歩等出かけ、挨拶を交わしている。総合学習や職場体験の場として学生を受け入れたり、夏祭りの参加呼びかけ・公共施設を活用する等、日常的に交流しているが、事業所の認識をもっと広めたいと考えている。	ホームのできることを職員で話し合い、地域と積極的に関わり、広報活動に力を入れ取り組むことが望まれる。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方について相談があった場合、出来る限り応じていきたいです。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、会議にて活動内容について報告しています。家族・民生委員・包括支援センターなどに出席していただき、意見・感想を参考にしています。	同園内の地域密着型特養と合同で定期的に関催し、サービスの実施状況の報告や意見交換等を行っている。防災訓練への参加依頼や災害時の対応等協力を呼びかけている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に行き来することは難しいですが、疑問や不安点などは高齢介護課の方に相談に乗っていただいています。	市役所、地域包括支援センターなど各担当部署との連携を図っている。虐待や成年後見制度の研修に参加したり、情報交換しており、良好な協力関係が築けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームが5階に位置するため、安全対策の為に出入り口の施錠は行っていますが、解錠の時間を設けるよう取り組んでいます。	研修はないが、拘束とは自由を奪わないことと理解して、利用者がその人らしく生活できるよう支援している。しかし、ホームには死角があり、目が届かないことで安全に注意し、午後2時間のみ解錠となっており、課題としている。	帰宅要求が強い利用者に対して対応できるよう、業務の見直しや同園内の事業所に協力を呼びかける等、解錠に向けた取り組みを期待したい。
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本人の心身状態に異常がないか観察しており、情報を共有し変化を見逃さないように努めています。高齢者虐待防止法について学ぶ機会を持ちたいと思います。	年1回虐待防止法について学ぶ機会を設けており、職員は更衣やお風呂時に皮膚観察をしたり、お茶の時間等、関わりながら利用者の変化を見逃さないよう注意を払っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている方は現在いらっしゃいませんが、必要性について包括支援センターに相談しています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には疑問点等について確認し、納得していただけるような対応に努めています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム入口に意見箱を設置していますが、家族来園の際に会話の中から意見や要望を伺うようにしています。月に1度介護相談員が来られ、利用者の意見等について話を聞いてくださっています。	面会時や電話・行事等で近況報告をする際に家族に聞くようにしている。冬期間の外出や外出の機会を増やすこと等意見をもらい、職員で話し合い、反映させている。年1回家族アンケートを実施することを検討中である。	家族は意見・要望・不満を言いだし難いということを理解し、家族アンケートの実施は意見を表せる良い機会であり、実現することが望まれる。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、カンファレンス時に意見を出し合っています。また職員が上下関係に縛られることなく意見を出し合える関係づくりを心がけています。	管理者に資格の相談したり、園長は職員にさりげなく声をかけ話を聞いており、話しやすい関係である。ユニットケアのフォローアップ研修に参加した職員からの提案で部屋のレイアウト変更を行った事例がある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	内部研修、会議の充実による動機付け、資格取得支援体制の確立など、条件整備に努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのスキルアップが図れるよう、資格取得の機会を大切にしています。園内研修にて介護技術の勉強会を行っています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の参加や実習を受け入れ、意見・情報交換の場を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	希望や不安をくみ取り、心配事を共に解消できるよう、導入段階は特に密にコミュニケーションをとり、信頼関係の構築に努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階から随時相談に応じ、困っていることへの対応や希望にできるだけ応えられるようにしています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の他、状況に応じて在宅時のケアマネや利用しているサービス事業者とも連絡を取り合い、ニーズの把握に努めています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事やトイレの場を共有し、季節毎の習わしや作法などを教わりながら、職員自身が利用者と一緒に暮らしているという意識を持つようにしています。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や変化時には近況を報告し、相談し合うようにしています。また、誕生会や夏祭りなどのイベントには家族の参加を呼びかけ、関係を維持していただけるよう働きかけています。	利用者とクリスマスカードを作製して家族に郵送しクリスマス会に参加してもらったり、些細な変化でも家族に報告し、何かあれば共に支援してことを伝えており、関係を築いている。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院への外出支援を家族に依頼したり、ドライブがてら暮らしていた街へ外出するなど、関係継続に努めています。	同園内の施設を利用している友人のところへ遊びに行き談笑したり、家族の協力で墓参りや月命日に仏壇参り等出かける等、支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人が孤立することなく円満な交流が図れるよう、個性や相性、その日の気分を見極めながら、臨機応変に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も本人・家族からの相談には応じ、必要があれば協力しています。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活習慣を大切に、日々の様子や会話などから本人の意向を把握するように努めています。	レクや入浴の希望を聞いたり、何が食べたいか、どこに行きたいか、どんな生活がしたいのか日々の様子から読み取り把握に努めている。困難な方は表情・性格・好み等で汲み取るようにしている。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人・家族と面接し、必要に応じてケアマネやサービス事業者などから話を聞き、生活歴などの情報収集に努めています。	今までの暮らしぶりは面接で確認するが、把握しきれなかった部分は日々の関わりの中で情報収集してその人らしく暮らせるように心がけている。気付いたことは申し送りノートに記入し、全職員で共有し把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態や変化等を日誌や生活記録に記し、職員で情報を共有しています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度のカンファレンス時に職員間で話し合い、状況に応じて併設看護師や管理栄養士などから意見をいただいています。	カンファレンスを行い、出来ることを維持していけるよう、利用者本位の意向、アイデアを反映し、常時情報収集している申し送りノートを活かし、計画作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は生活記録に、ケアの実践については経過記録に記入し、計画の見直し等の際に活用しています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科や散髪のサービスを利用できる体制になっています。また、状況に応じて協力病院以外の受診の支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣の授産施設のイベントへの参加や民生委員ボランティアの受け入れなど行っています。運営推進会議などを通じて地元知見者や包括などからもアドバイスをいただいています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望の医療機関を確認しています。家族が受診の付添いをされる場合は手紙を添えて状態を報告し、また医師から文章にて指示を受けるなど、情報交換を行っています。	希望により殆どの入居者が、管理者の同行で協力医に受診している。他科受診は手紙を添え家族に受診を依頼している。緊急時には同園内の看護師と連携し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりで気づいたことなどは併設施設の看護師にその場で相談したり、協力病院の看護師に助言をいただいたりし、必要に応じた医療が受けられるようにしています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院のケースワーカーや看護師と情報を交換し、退院に向けて相談しています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化時にはホームでできることを説明し、重度化した場合についても考えていただき、状況に応じて随時本人・家族と話し合い、できるだけ希望に沿ったケアが行えるよう関連施設への移行支援などを行っています。	入居時から、ホームでできる範囲とリスク等、方針を説明し、状況に応じて本人・家族と話し合いを重ねている。医療・栄養面等専門職とも連携し、その人らしいケアに繋がられるよう、チームで方針を共有して、支援に取り組んでいる。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設施設の看護師より、事故発生時の対応等について研修を行ってもらっています。	年1回、法人内の研修でADL操作や心肺蘇生法等を学んでいる。同園内の看護師から緊急時対応の研修を受けたり、夜間等の緊急時に、同園から応援職員がくる人員体制を整えている。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に併設施設と避難訓練を行い、消防署の協力の下消化方法等を実践的に学んでいます。	年2回、同園6つの事業所合同で、避難訓練を実施している。今回、運営推進会議で地域の方に声かけしたが、都合が合わず参加はされなかった。5階に位置しているホーム独自の災害対策は、これからである。	入居者は高齢認知症であること、5階に位置していること、地域との協力の重要性等、ホームが抱えるリスクの特性・課題を検討し、独自の災害対策に取り組むことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレへの声掛けや帰宅欲求がある際の対応など、周囲の目を意識した対応を行っています。本人の自尊心を傷つけないような言葉かけを心掛けて支援しています。	理念「心に寄り添う」こと、「全ての思いを受け止める」ことを念頭に、自尊心や羞恥心に配慮した、さりげない声かけや対応を配慮している。記録を広げたまま席を離れる職員がおり、プライバシー確保が徹底されていない様子が見られた。	研修や会議等で学び、自覚しない言動がないか確認しあったり、具体的な工夫を検討し、同じ意識でプライバシー確保に取り組むことが望まれる。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替えの衣類や食べたいもの、やりたい事を生活の中でできる限り自己選択・自己決定できるよう、日頃のコミュニケーションを多く取り、希望を気軽に伝えられる関係作りに努めています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	週や1日の日課はありますが、その日の体調や気分に応じて決められるよう選択していただいています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は可能な限り自分で選んでいただき、外出時や行事の際は化粧品の支援など本人の好みに沿って対応しています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力ややる気に応じて食事作りを行い、味付けや盛り付けなどアドバイスをいただいています。また、メニューがマンネリ化しないよう季節やイベントに沿った献立やリクエストを取るなどしています。	今回嗜好調査を実施した。希望に合わせ、同園栄養士の助言を受け献立作成している。週3回の食材の買い物をはじめ、一連の食事作りを好みや力を活かし一緒にしている。毎月の外食や出前、手作りおやつ、行事食等は楽しみとなっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表にて個々の食事量を把握し、摂取量が偏らないようにしています。好みや機能に合わせてメニューや食事形態を変更したり、見た目を楽しめるよう盛りつけの工夫をしています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	能力に応じて声掛け～見守り、介助を行い、毎食後口腔ケアを行っています。異常がみられた際は訪問歯科の先生に相談しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表にて大体の排泄パターンを把握し、時間と一人一人の行動パターンに沿ってトイレへの排泄支援を行っています。	チェック表にて排泄パターンや行動サインを把握し、個々に合わせた自立支援に努めている。さりげない声かけを動き出す時にすることで、スムーズにトイレに行くことができ、排泄の失敗を減らし、リハビリパンツ使用となった例がある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や乳製品をメニューに取り入れること、水分を多く摂っていただくことを意識しています。また毎日の体操で最低限の活動量維持を図り、便秘予防に努めています。便秘傾向の方は漢方茶や下剤にて排便コントロールを行っています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は限られてしまっていますが、曜日や順序は決めず、原則個々の希望や体調に沿って入浴の有無を決めていただいています。入浴剤を活用し、くつろいで頂けるようにしています。	浴槽には可倒式電動リフトが設置されており、足腰が弱い方も入浴できる。職員と1対1で関わる時間として、楽しみにしている方が多い。希望、体調等にあわせ無理強いせず、更衣・清拭等に変更したり、時間や順番を調整し支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分で移動できる方は自由に休んでいただき、判断に支援が必要な方には一人ひとりのペースや体調に沿って休むかどうか希望を伺っています。照明の明るさは本人に確認しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての目的の把握はできていませんが、主病に対する薬の効果と用法・用量は概ね理解しています。いつでも薬の内容が確認できるよう、個人台帳に薬の説明書をつけています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	余暇活動は全体で行う物と、ドリルや折り紙など個々の好みに合わせた物とを行っています。料理や裁縫・たみ物など、得意分野を生かした活動を行っていただくよう支援しています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出行事を取り入れるようにしている他、散歩や食材の買い物など、希望を伺って出掛けています。なじみの美容院やお墓参りなど職員の支援が難しい場合はご家族に協力していただいています。	希望により、散歩や喫茶店でお茶飲み、買い物、美容院等、民生委員の方や家族とも協力し、日常的に外出している。年間の外出行事を計画しており、ぶどう狩り、せんべい工場見学等、普段行けないような場所でも出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望に応じて、お小遣い程度の範囲で自己管理していただいています。散歩の際の買い物など、希望時は支払いの支援を行っています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話をかけるまでのお手伝いや、年賀状書きの支援を行っています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎の飾り付けや写真・金魚などを置き、刺激となってしまった物は撤去するなど、居心地良く感じて頂けるよう日々試行錯誤しています。また、快適な空間となるよう、温度・湿度に配慮しています。	今回、研修に参加した職員意見から、快適な空間を検討している。思い出の写真をコルクボード・写真立てに飾り、落ち着いた雰囲気を出している。フロアに干した洗濯物が気になり、不安定になる方が多く撤去している。さらに快適で家庭的な空間づくりに取り組みたいと考えている。	鉄筋ビルのハード面を変えることは難しいが、考慮中の利用の少ない畳間の活用法等、ホームは自宅の延長であることを再認識し、さらに工夫を重ね、居心地よく過ごせる空間作りに取り組むことを期待したい。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲間と過ごせる食卓スペースの他、テレビ前や窓際にソファやベンチを設置し、一人や数人で過ごせる空間づくりを行っています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使いなれた家具や嗜好品を持ってきていただき、基本的に本人とご家族で部屋づくりをしていただいています。生活の中で本人の希望に沿って随時変更していません。	居室入口には職員が筆書きした似顔絵・表札や暖簾を飾り、自室をわかりやすくしている。ベッド、クローゼット、洗面台等設置されており、使い慣れたものや好みのものを活かし、その人らしい居室に工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	立位が不安定の方はベッドに手すりを設置し、安全な立ち座りが自力で行えるようにしています。また、キャスター付きのシャワーチェアを導入し、歩行が困難でも安全かつできるだけ少ない負担で浴槽の出入りができるようにしています。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族等と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
				1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない